



アイ・モバイル ITマーケティング研究所

ITMarketingNews

2018年は、スマートスピーカー元年に

■ クリスマス商戦に向けて、各メーカーが一斉に商品投入

2017年クリスマス商戦において、Amazon,Googleなどアメリカの巨大IT企業から相次いで「スマートスピーカー」の日本市場への投入が発表され、国内からもソニー、LINEも相次いで製品を投入するという、さながら「スマートスピーカー戦争」の様相を呈しています。

商品投入が過熱する一方で、「何の役に立つのか分からない」「生活に必要だと思えない」という声も多いようで、日本での本格普及には、まだ少し時間がかかるように思われます。

今号ではスマートスピーカーがどういうものかを紹介しつつ、今後私たちの 生活の中にどのように組み込まれ、普及していくか予測してみます。



代表的なスマートスピーカー Amazon Echo

■ SF的近未来社会が、すぐそこに

スマートスピーカーとは、音声を出力するスピーカーに、音声を入力するマイクを内蔵し、AIアシスタントを介して様々なサービスを「音声入力で」操作できるスピーカーです。一部メディアで「AIスピーカー」という呼び方も使われていますが、スピーカーにAIが内蔵されている訳ではないので、ややミスリードでしょう。

AIアシスタントは、ウェイクワード(起動語)の後に続く音声入力を指示コマンドと受け取り、事前の設定に従って音楽を流したり、ショッピングを実行したりするのです。入力される音声によって個人を識別して、命令実行の可否を判断する能力は現在のところありません。つまり誰の声でも作動します。

ショッピング機能が有効になっているスマートスピーカーから、子供が勝手におもちゃを発注するという可愛いらしいエピソードも報告されていますが、2017年1月には、米カリフォルニア州サンディエゴのテレビニュースで、キャスターが「Alexaが私のためにドールハウスを注文してくれた」という視聴者のコメントを読み上げたところ、数日後にサンディエゴ中の視聴者から、勝手にドールハウスが発注されて届いたという苦情が殺到しました。

Alexa(AmazonEchoの初期起動語)が、ニュースキャスターの声を、 指示と受け取りドールハウスを発注した訳です。この事案ではAmazonは、 ドールハウスの代金を請求しなかったようです(太っ腹!)

新しい技術が普及する過程で、こういう想定外の事象はつきものですが、AIアシスタントがある生活、なんだかワクワクしません?

Amazon Echoプレゼントキャンペーン、奮ってご応募ください!



「**アレクサ、**○○**して**」「**オッケーグーグル、××して**」 スマートスピーカーに何か指示する際、ウェイクワード (起動語)が必要です。しかし、アレクサやオッケー グーグルって、ちょっと、愛着がわきませんよね (^^;) なぜ、自由にウェイクワードを設定できないかというと、 現在のスマートスピーカーはAIを内蔵しておらず、クラ ウド上でAIがユーザーの音声を判定するからです。

次世代のスマートスピーカーは、きっと小型のAIモ ジュールを内蔵し、ウェイクワードのパーソナライズが 可能になるでしょう。



芸能人やアイドル、片想いの女性の名など、愛着の湧くネーミングを付けられるとスマートスピーカーの普及に拍車がかかりそうです。 (ITマーケティング研究所 山岸)





🎐 アイ・モバイル Business column

ロボティクス、自動運転などとの接続で応用範囲が飛躍的に広がる

主な用途が、「音楽を聴く」「ニュースや天気予報を音声で聞く」だと、スピーカーの延長でしかイメージされず、一部のガジェット好き、アーリーアダプターしか手に取らないという低迷から抜け出せないでしょう。他にも、家電製品のコントロール(例:テレビのON/OFF、ボリューム調整、チャンネル変更、照明の調整、風呂の用意、空調の温度調整など)なども、すでに実現している機能です。

スマートスピーカーが、今後急速な発達が予測されるロボティクスおよび各種製品へのAI搭載・自動化と繋がったとき、 私たちの生活は手塚治虫先生が「鉄腕アトム」や「火の鳥」で描いたような高度に技術が発展したSF的近未来が現実に なるでしょう。

たとえば、GoogleやAppleなどIT企業や、テスラ、トヨタなど自動車メーカーが開発にしのぎを削る自動運転車が普及すれば、リビングでコーヒーを飲みながら駐車場から玄関先まで車を出すようにAIアシスタントに指示して、車で出発する準備ができたら知らせてもらう。などといったことが普通になります。

■ 日本で発売中(または、発売予定)の主要スマートスピーカー

米国市場では、2014年11月に米国市場に製品を投入したAmazonのEcho(エコー)が最もシェアを持っていて、2年遅れで参入したGoogleのHomeが後を追っています。

2017年12月10日現在、日本で発売されている主要なスマートスピーカーは以下の通りです。

製品名	Amazon Echo	Google Home	Apple HomePod	LF-S50G	Clova Wave
販売元	Amazon	Google	Apple	SONY	LINE
AI アシスタント	Alexa (アレクサ)	Google アシスタント	Siri	Google アシスタント	Clova
音楽サービス	Amazon Music	Google Play Music/Spotify	Apple Music	Google Play Music/Spotify	LINE MUSIC
特長	連携できるアプ リ・サービスが 多数 2016年米国で 9割超のシェア	Google検索とい う巨大なデータ ベース・サービ スと連携	Apple Musicが 使える	ジェスチャーに よる音楽再生な ど	LINE連携によ るメッセージ 送受信
起動語	「Alexa」 「Amazon」 「Echo」 「Computer」	「OK Google」	「Hey Siri」	「OK Google」	「Clova」 「Jessica」
製品写真				DB 30	

(出所) 製品画像、スペックは各社公式ホームページより

■ 音声入力使ってますか?

社内外で「スマートスピーカー」の購買意欲をヒアリングしてみたところ、進んで買いたいという人がいませんでした。実際、売れてないようです。アンケートを進めるうちに、**そもそも音声入力を使っていないことが判明!**

みなさん、スマホを持っているのに音声入力は使わないなんて損ですよ。たとえば、長い住所なんかも音声入力なら一発で地図をピンポイント表示、そこまでの行き方などもすぐに分かります。「●●(住所)まで、ナビ」と音声入力してみてください。

音声入力の便利さが認知され 利用率が高まればスマートス ピーカーを買おうかなという 人が増えそうですね。

今月のお客様ホームページ紹介

茨城県水戸市の一級建築士事務所「オフィスエイト株式会社」様

気軽に買い替えできない大切な家だからこそ、検討するのに十分な情報と信頼が必要です。 定期的に更新しコンテンツの充実だけでなく、企業イメージのアップに繋げます。

オフィスエイト株式会社 http://www.office8.co.jp/

~ 提供実績 2.5万件以上

Information

東京本社でセミナーやってます! マーケティングの基本や、 Smartpageの使い方 講座など 当社ホームページで ご案内中です!

ホームページのご相談は アイ・モバイルまで

marketing-pr@imobile.co.jp

発行:アイ・モバイル株式会社

〒102-0094 千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル1F TEL: 0120-171-060 FAX: 0120-937-255

営業時間:9:00~18:00(土日,祝日,年末年始を除く) URL: http://www.imobile.co.jp/





